

子どもの人格を尊重する指導のあり方を探る

—よい面にも悪い面にも注目した教師の指導行動の分析を通して—

大石 彩乃

Instruction that Respects Children's Personalities:

An Analysis of Instruction by a Teacher Who Watches Children's Good and Bad Sides

Ayano OHISHI

はじめに

筆者は以前、自己否定的な発言をする何人かの子どもに出会った。自分に自信を持てなかった過去の自分の姿と子どもの姿が重なり、力になりたいという思いを強く持った。そして、子どもにとって身近な存在である教師という立場から、苦しんでいる子どもたちを支えていきたいと考えるようになった。子どもが自己の存在を肯定的に捉えるためには、認めること、褒めることが大事であるように思える。しかし、それだけでは不十分であり、人間として好ましくない行動をしてしまう児童に対して厳しく指導することも必要である。これらのバランスが取れた指導とはどのようなものであろうか。本論文では、教師の指導を分析することで、子どもの人格を尊重した指導のあり方について探っていく。

1. 目的

子どもを「認める」ことと「叱る」こと、教師との関わりが中心となっている小学校低学年において、この二つのバランスの取れた指導を行っていくためにはどのようにすれば良いのだろうか。本研究では指導の手がかりの一例として、経験のある優れた教員の指導の特徴について分析を行っていく。従来の研究で取り上げられていない「子どもの人格の尊重」という視点から分析を行う。そして、教諭の指導の方法から、子どもを認めるとはどのようなことなのか、子どもを叱る場面で子どもの人格を否定しない指導を行うためにはどのような工夫があるのかを考察する。そして、そのような指導をすることによって、どのような学級の雰囲気形成されるのか、子どもたちの中にどのような変化が現れるのかということ、子どもの作文を通して検討することとする。

2. 方法

(1) B教諭の指導分析

本研究では、平成23年4月から7月までの4か月間、計16日間にわたり、筆者の滞在実習校であるA小学校の2年B学級に滞在し、学級担任のB教諭の指導について観察を行った。B教諭の指導として、「ほめる指導」、「叱る指導」など、児童に対して直接的に指導を行っていると思われるエピソードを対象とした。それらのエピソードをまとめ、B教諭

の指導行動のリストを作成し、その中から B 教諭の特徴を表現していると思われる行動を抜き出し、それらを KJ 法で 11 のカテゴリーに分類する。その後、それぞれのカテゴリーについて名前を付け、さらにそれらを似たもの同士で分類した。

(2) インタビュー調査

B 教諭の指導行動の分類結果と、B 教諭の指導に対する考え方とが一貫しているかどうかを考察するため、B 教諭本人にインタビュー調査を行った。内容は、①指導分類のそれぞれの項目についてそのような指導をするようになった経緯や思い、②B 教諭から見た B 学級の様子、③B 教諭の指導理念、である。また、第三者から見た B 教諭の指導について考察するために、同僚教諭及び校長へのインタビュー調査を行った。インタビュー結果から得られた B 教諭の良さや特徴について、筆者の分類結果と結び付いているかどうか妥当性を検証する。

(3) B 学級の児童の作文分析

B 教諭の指導により、学級の雰囲気の特徴が表れるのかを考察するため、児童の作文の分析を行った。対象である B 教諭の学級と、比較対象として隣の学級である C 学級の児童に作文を書いてもらった。作文のテーマは、「二年〇組(各学級名)ってどんなクラス？」と設定した。児童のすべての作文を読み、B 学級、C 学級の児童の作文全体を通して差異があると思われる記述をいくつか抜き出す。その上でそれらに本当に差異があるのかということを検証するため、数値として B、C 学級間の結果を比較する。

3. 結果

(1) B 教諭の指導分類項目

表 1 B 教諭の指導分類

	分類の名前	概要
承認重視	過度なコントロールの回避	子どもを縛りすぎずに自由を保証している場面
	発言・行為の受容	授業に直接関係ない発言や行動でも無視せずに取り上げる
	良さや頑張りの承認	主に子どもをほめている場面
	確認	子どもの発言を他の子にも繰り返し聞いて確認させる
規律重視	非言語的指導	言葉で叱らず強い視線を送ることによって子どもに悟らせる
	叱ることによらない指導	叱らずに待つ、カウントダウンをする、指名をするなど、良くない表れを叱らずに指導する様々なテクニック
	加害児童対応の優先	児童同士の喧嘩の際、被害児童の話よりも先に加害児童の話聞く
	叱ることよりも聞くことの優先	頭ごなしに叱りつけず、何があったのかを聞き、事実を整理する
	思いを伝える指導	子どもに視線を合わせ、真剣に正面から思いを伝えている場面
	直接的な叱り方	叱っていることが明確に分かる指導場面
	指導の切り替え	叱り終わったらすぐに切り替え、叱ったことを引きずらない

B 教諭の指導行動の代表的エピソードを、似ているカテゴリー同士分類すると 11 個に分類できた。11 個の分類についてエピソードに共通する点に基づいて、カテゴリーの名称を表 1 のように決定した。さらに、11 個の指導分類を「承認重視」の指導と、「規律重視」の指導の二種類に分類した。「承認重視」の指導は子どものよい表れを認めている場面、規律によって子どもを縛っていないと思われる場面である。「規律重視」の指導は児童の良くない面に着目し、規律を重視して叱るなどの指導を行っている場面である。なお、「指導の切り替え」はどちらにも当てはまらない。

(2) インタビュー結果

B 教諭の指導は B 教諭のこれまでの経験に基づいた指導が多い。その上で、学級の児童の様子をよく観察し、児童の実態に合わせた指導を行っている。B 学級の様子についてのインタビューでは児童の名前が 20 名以上登場し、気になる子はあるかという質問に対し「みんな気になる」という発言をしていた。また、B 教諭は児童に対し、「相手の心、思いを大事にするようになってほしい」、「相手を大事にすることで自分の心も大事にしてほしい」、「自分たちで判断して行動できるようになってほしい」という願いを持っている。

同僚教諭及び校長から見た B 教諭の指導の特徴は、「非言語的指導」「過度なコントロールの回避」など、筆者の指導分類カテゴリーと一致するものが多く見られた。

(3) 作文分析結果

B, C 学級間の児童の作文を比較したところ、両学級間に差異が見られたのは、①児童の作文の文字数、②分類項目の内訳、③登場人物の人数、④感情の表出についての 4 項目である。B 学級の特徴が表れていると思われる点は二つ挙げられる。一つは、作文に書く内容の量が多いという点である。①の「作文の文字数」では、B 学級の記述量が多く、②「作文に登場する項目」の一人あたりの項目の平均値も B 学級の方が多かった。もう一つは、友達についての記述が多い点である。②「作文に登場する項目」で B 学級の友達についての記述が C 学級に比べ多かった。またそれに関連し、③の「登場人物の人数」についても B 学級の方が出てくる友達の人数が多かった。さらに、④の「感情の表出」の結果からは、友達への思いやりや尊敬の気持ちが記述されているものが多かった。

また、児童の作文の中には「ちょっとふざけておこられる時もあるんです。けどみんながんばってます」など、B 教諭の指導について直接的に記述されているものもいくつかあった。

4. 考察

B 教諭の 11 項目の指導分類について、さらに似た項目同士に分類し、構造化を図った。指導分類の全体を通して見ると、B 教諭は「承認重視」の指導と、叱るべき場面は叱るといって、「規律重視」の指導の両方をバランスよく行っていることがわかる。B 教諭は、子どもの良い表れも悪い表れも決して見逃さず、子どもの存在自体を見守る姿勢を持っている。また、

B 教諭の規律重視の指導は単純に頭ごなしに叱るだけではなく、叱らずに子どもに判断を委ねたり、聞くことを優先したりするなど、子どもを否定する状況を減らす工夫が見られる。承認重視の「認める」指導、規律重視ではあるが「否定する状況を減らす」工夫、ま

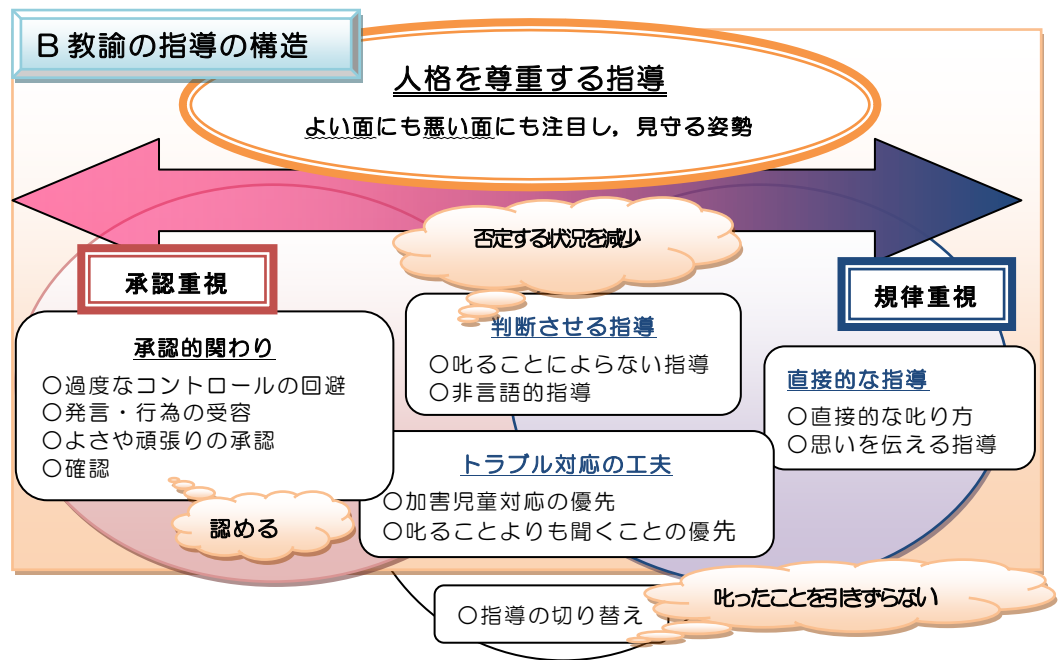


図 1 B 教諭の指導の構造

た、指導を切り替えることにより「叱ったことを引きずらない」工夫、この三点が B 教諭の指導の大きな特徴であると考えられる。これらのことから、B 教諭の指導のスタイルは子どもの感情に寄り添い、子どもの人格を尊重したものであると考えられる。

また、B 学級の児童の作文からは、「作文に書く内容の量が多い」、「友達についての記述が多い」という特徴が見られた。B 学級の児童は作文に書きたいと思える内容が多く、興味を持てる対象や楽しいと思える事柄が多いのではないかとと思われる。そして、友達との関わりを大事にし、友達のことを思いやったり、友達の良さに自分から目を向けてたりすることができているのではないかと考えられる。また、何人かの児童の作文からは B 教諭をおそれつものがんばるといふ、B 教諭の指導について直接的に記述しているものがあつた。この結果は、B 教諭のインタビューから得られた指導理念の「相手の思いを大事にしてほしい」、「自分で判断できるようになってほしい」という思いが反映されているのではないかと考えられる。

おわりに

本研究では、魅力的な生徒指導を行っていると思われる B 教諭の指導行動の分析を行った。その結果、B 教諭は承認と規律のバランスの取れた指導を行い、子ども一人ひとりの良い面、悪い面ともに注目した、見守る指導を行っていると考えられる。そのような指導によって、友達を大事にし、様々なことに興味関心を持った感情豊かな学級の雰囲気が形成されるという可能性を見出した。

B 教諭の指導は経験による部分も大きい、「承認的関わり」、「トラブル対応の工夫」などは意識すればすぐに実践に生かすことができると思われる。これらの指導を参考にし、子どもの人格を尊重した実践を行っていききたい。